

農作物の晩霜害対策について

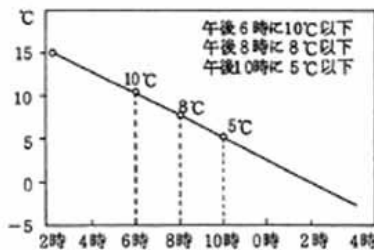
例年、3～4月の晩霜による被害が多く見られます。

気象情報には十分注意し万全の対策をおこなってください。

霜注意報に十分注意し、地域気象の的確な予想が必要です。

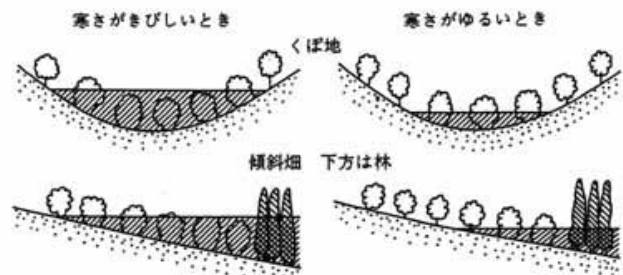
霜害の起こりやすい気象条件

- ・降雨の後寒い北風が吹き、日中の最高気温が20℃以下である。
- ・宵のうち風がやんで（風速3.5m以下）、夜になって晴れあがり、底冷えがする。
- ・午後6時の気温が10℃以下、午後10時に5℃以下で、1時間に1℃の割合で温度低下がみられる（第1図）。



第1図 日中と夕方の気温からの霜予想
（注）接地温度は更に2～3℃低くなる。

第2図 霜害による被害は場所によりちがう
—低地ほど被害にあいやすい—（斜線部分）



霜害を未然に防止するには

防霜ファン

事前に点検を実施し、設定温度の確認・試運転の実施をおこないます。

燃焼法

ファン等のないところは、あらかじめ燃焼資材の準備をしておきましょう。

防霜効果を高めるには、早朝の点火と点火数を多くすることが大切です。

なお、廃油・古タイヤ等は産業廃棄物なので絶対に使用しないで下さい。

燃焼資材（防霜ロック10a 当たり30個、おがくず・米ぬか等10a 当たり50個）

被覆法

古ビニールやタフベル等でトンネル掛けをおこないます。

保健師メモ

花粉症なんかこわくない

花粉症は、植物の花粉によつて起こるアレルギー性の病気です。樹木や草花の花粉が飛ぶ季節に、花粉が目や鼻の粘膜に着くことで症状が現れます。原因となる植物は50種以上もあり代表はスギです。

また花粉症は、遺伝的な体質、気密性の高い住居、食生活の変化など様々な要因によつても起こります。

【花粉症の症状】

くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目、のど、皮膚のかゆみなどの「首から上」の症状が主ですが熱感や倦怠感を伴うこともあります。

【花粉症の現れる仕組み】

人間の体には、体内に侵入した外敵を取り除こうとする働きがあります。鼻水で洗い流そうとしたり、くしゃみで吹き飛ばそうとしたりするのは、ただ、人によつてはあ

る特定の異物（抗原）が入ってくるとこの働きが行き過ぎて過剰反応（アレルギー反応）を起こします。花粉症は体に侵入した花粉を敵と認めて反応してしまう過敏な体質の人に起こるのです。

【花粉症の症状が現れたら】

まずは、早めに専門の医者（医師）に診てもらってください。治療は「花粉症かどうか」から始まり、「どの花粉が原因か？」など調査し一人ひとりに合った治療をします。薬は、症状がひどくなつてからは効きにくい場合もあります。

【花粉の予防策】

花粉からは逃げるが勝ちです。風の強い晴れた日は外出を控えめに！

マスクやスカーフ、プロテクター付きのめがねやゴーグル、帽子を着用する。

服はスベスベした素材のものを選ぶ。

家に入る前は、持ち物に着いた花粉をはらう。

帰ったら、手・顔・目を洗うがいをする。